

計画段階評価対応方針

【河川事業】

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
<p>渡良瀬川中流部の流下能力向上対策 関東地方整備局</p>	<p>渡良瀬川中流部に架かる中橋は計画高水位より桁下が低く、河川整備計画規模の洪水を安全に流下させることが出来ない状況。</p>	<p>治水安全度が1/2程度と著しく低い中流部の中橋付近の治水安全度の向上を行う。</p>	<p>・渡良瀬川における適用性を考慮し、「渡良瀬川中流部の流下能力向上対策」の効果を発揮できる複数の治水対策案を立案した。 ・渡良瀬川において、実現可能であるかの観点で概略評価を行い、「橋梁架替え+堤防嵩上げ案」「河道掘削案」「既設ダムの有効活用案」を抽出して、7つの評価軸(「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」)について評価した。</p> <p>(案1) 橋梁架替え+堤防嵩上げ案 流下阻害となる中橋の架替えと、堤防高が不足している架橋地点の堤防嵩上げを行う案</p> <p>(案2) 河道掘削案 中流部(中橋地点上下流)の河道掘削を行い、河積を確保し水位を低減させる案</p> <p>(案3) 既設ダムの有効活用案 草木ダムの嵩上げ、放流設備の改造や操作ルールの見直し等により洪水調整能力を增強・効率化させ下流の流量を低減させる案</p>	<p>抽出した3案のうち、「コスト」について最も有利な案は、(案1)「橋梁架替え+堤防嵩上げ案」であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素がないと考えられるため、(案1)による対策が妥当。</p>

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
<p>水門川排水機場 特定構造物改築事業 中部地方整備局</p>	<p>・昭和43年に設置されて以降52年が経過し、機場本体及びポンプ等機械設備の老朽化は著しいが、交換部品の製造中止等、抜本的な修繕が困難であり、出水時の機能停止が懸念されている。</p> <p>・計画堤防断面に対する現況堤防の断面が不足している他、ポンプの連続振動を緩和する吐出水槽が設置されておらず、現行の「河川管理施設等構造令」に適合していないなど、堤防の安全性が十分に確保されていない。</p> <p>・過去2回にわたり大規模修繕を行うも、年々、機械設備修繕費は増加傾向にあり、抜本的な対策が求められている。</p> <p>・万が一、流末にある排水機場の停止等により浸水した場合、大垣市街地を中心に甚大な被害が予想される。</p>	<p>・水門川の内水安全度の向上</p> <p>・昭和36年6月豪雨と同程度の規模の雨量に対し、床上浸水被害を防止する。</p>	<p>・具体的な達成目標が達成可能で、水門川流域で現状において適用可能な方策について検討。</p> <p>・具体的な達成目標が達成可能で、水門川流域の現状において実現可能な案であるかの観点で概略評価を行い、対策案を抽出。</p> <p>・7つの評価軸(「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」)について評価し、総合評価を実施。</p> <p>(案①)堤防のかさ上げ(バック堤) 牧田川本川堤防と同じ高さで水門川、新規川、中之江川の堤防整備を行い、自己流排水できるようにする案</p> <p>(案②)遊水地 洪水の一部を遊水地に貯留し、ピーク流量を低減させることで内水被害を低減させる案</p> <p>(案③)排水機場(新・旧排水機場の統合) 流末の排水機場機能を回復・向上させることで内水被害を低減させる案</p>	<p>・3案のうち、コスト面で「案③:排水機場(新・旧排水機場の統合)」が最も有利であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素はないと考えられるため、「案③:排水機場(新・旧排水機場の統合)」による対策が妥当。</p>

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
筑後川における治水対策 九州地方整備局	<ul style="list-style-type: none"> ・筑後川水系の支川である金丸川・池町川では、市街化の発展に伴い、流域の遊水・保水機能が以前より低下して浸水被害のリスクが高まっており、近年では、平成24年7月、平成30年7月、令和元年7月、8月、令和2年7月に浸水被害が発生している。 ・平成30年7月洪水では、本川水位の上昇による古賀坂水門の閉鎖時間帯に金丸川・池町川の流量増加が重なったことで、金丸川と池町川の水位が上昇し、堤防が低い箇所からの溢水や金丸川・池町川へ排水する水路からの溢水により浸水被害が発生した。(床上浸水369戸、床下浸水612戸、浸水面積約95ha) ・洪水に対する被害軽減対策を実施してきたが、被害を解消するには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頻発する浸水被害の軽減 ・国・福岡県・久留米市の役割分担のもと、年超過確率1/10の洪水に対する家屋の床上浸水被害を解消する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筑後川総合内水緊急対策事業の治水目標を達成するための複数の治水対策案を立案した。 ・内水対策の特性を考慮した単独案及び複数の内水対策による組合せ案を検討し、実現性・コスト面から有利となる3案を抽出して、7つの評価軸(「治水安全度」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」「地域社会への影響」「環境への影響」)について評価した。 (案①)単独案 古賀坂排水機場の増強により対応する案 (案②)2対策の組み合わせ案 金丸川・池町川パラベット築堤、古賀坂排水機場の増強の組み合わせにより対応する案 (案③)3対策の組み合わせ案 金丸川・池町川パラベット築堤、第2放水路排水ポンプ設置、金丸調整池の整備、古賀坂排水機場の増強の組み合わせにより対応する案	<ul style="list-style-type: none"> ・3案のうち、「コスト」について最も有利な案は案③であり、他の評価項目でも当該評価を覆すほどの要素はないと考えられるため、案③による対策が妥当。

実施箇所 実施主体	解決すべき課題等	達成すべき 政策目標	複数案との比較	対応方針
<p>山国川総合水系 環境整備事業</p> <p>九州地方整備局</p>	<p>・上毛町、吉富町、中津市は、「定住自立圏の形成に関する協定」に基づいた、3地区それぞれの特色を活かした水辺拠点の整備を行うことで、魅力向上を図り、交流人口や観光客等の増加を目指しているが、水辺拠点の整備ができていない。</p> <p>・3地区の水辺拠点整備箇所については、水際へのアクセシビリティの悪さ、樹木・草木の繁茂及び利用者の休憩場所やトイレなどが不足しており、また、周辺施設と一体的な利活用を行う空間が確保されていない。</p>	<p>・まちづくりと一体となった上毛町、吉富町、中津市の3地区の水辺拠点を整備することにより、新たな賑わいを創出するとともに地域活性化に貢献する。</p> <p>・中津駅をはじめ多くの観光客が集まる市街地と「水辺拠点」をサイクリングルートで結ぶことにより、山国川の自然、歴史資源等の魅力を活用し観光を中心としたまちづくりに貢献する。</p>	<p>・水辺利用の促進に関して、地域の熱意が高く、3市町が連携した「かわまちづくり」の取り組みが推進されている山国川下流部の「上毛町地区」「吉富町地区」「中津町地区」の周辺を対象に複数の環境整備案を立案。</p> <p>・対象箇所の特性を考慮して「実現性」、「アクセシビリティ」、「観光機能」、「経済性(コスト)」、「維持管理の持続性」、「地域社会への影響」、「環境・景観への影響」の7つの評価軸について、3地区それぞれ評価を実施。</p> <p>【上毛町地区】</p> <p>(案A) 新山国大橋下流 (山国川6k800付近)</p> <p>(案B) 新山国大橋上流 (山国川7k200付近)</p> <p>(案C) 唐原小学校前 (山国川7k800付近)</p> <p>【吉富町地区】</p> <p>(案A) 山国川総合グラウンドリニューアル (山国川2k200付近)</p> <p>(案B) 幸子団地前公園整備 (山国川3k200付近)</p> <p>【中津市地区】</p> <p>(案A) 中津城周辺 (中津川0k700付近)</p> <p>(案B) 山国橋周辺 (山国川1k300付近)</p> <p>(案C) 山国川鉄道橋周辺 (山国川1k600付近)</p>	<p>比較した3案のうち山国川下流部のかわとまちが融合した環境整備にあたっては、観光機能、経済性、地域社会への影響等のそれぞれの面から、【上毛町地区】「B案 新山国大橋上流」、【吉富町地区】「A案 山国川総合グラウンドリニューアル」、【中津市地区】「A案 中津城周辺」の整備が最も有利であり、他の評価項目でも当該評価を覆す要素がないため、整備を行うことが妥当。</p>